

## 学会員（教員）研究動向 〔2023.4～2024.3〕

名前	種別	書名，論文名等，（掲載書名・誌名（巻号），出版社・発行所），頁	発行年月
秋葉 武	著書(共著)	『2019 年度事業「子ども支援団体の組織基盤強化」(草の根活動支援事業) 資金分配団体 事後評価報告書』(公益財団法人パブリックリソース財団)	2024. 3
	論文(単著)	「NPO の組織基盤強化—休眠預金活用による経営支援を事例として—」(『立命館産業社会論集』第59巻第4号)111-119頁	2024. 3
	論文(単著)	「保険業界の資産運用—ESG / SDGs 投資に焦点を当てて」(『日本共済協会 共済理論研究』2022年度)43-67頁	2024. 3
	研究発表等 (単独)	「NPO の組織基盤強化——休眠預金活用による経営支援を事例として——」(日本経営診断学会第56回全国大会)	2023.10
有賀 郁敏	論文(単著)	「ドイツにおける協会組織の歴史的変遷に関する私論」(『立命館産業社会論集』第59巻第1号) 3-22頁	2023. 6
	その他(単著)	[訳者解説]「ドイツツルネンのアメリカ合衆国への伝播と普及をめぐる アネッテ・ホフマンの研究」(『立命館産業社会論集』第59巻第1号)65-69頁	2023. 6
	その他	Ikutoshi Aruga, Kurzüberblick über die neuere Geschichtsforschung und Sportgeschichte in Japan, in: Extrablatt Prof. Dr. Michael Krüger Denker, Autor, Turner und Freund, Sonderausgabe, Montag, 3. Juli 2023, S.6.	2023. 7
	その他(単著)	「人間の叡智—大きくて青い空が見たい—」(『卒業論文集—余暇社会の歴史と現代—』産業社会学部有賀郁敏ゼミ) 1-9 頁	2024. 3
	その他(単著)	「歴史の登音を聞く—ドイツにおける反ユダヤ主義批判の行方—」(『さんしや Zapping』Vol.38 No.2, 通巻205号)31-43頁	2024. 3
飯田 豊	著書(共編著者)	『취미와 젠더 '수공예'와 '공작'의 근대 (『趣味とジェンダー —〈手づくり〉と〈自作〉の近代』韓国語版)』(쓰지 이즈미·이다 유타카·진노유키 외, 소명출판)全325頁	2023. 7
	著書(共編著者)	『[新版]現代文化への社会学—90年代と「いま」を比較する』(高野光平・加島卓・飯田豊編著, 北樹出版)全188頁	2023.12
	著書(共著)	『万国博覧会と「日本」—アートとメディアの視点から』(暮沢剛巳・飯田豊・江藤光紀・加島卓・鯖江秀樹・W.ガードナー, 勁草書房)	2024. 3
	論文(単著)	「テレビドラマのなかの嗜好品文化」(公益財団法人たばこ総合研究センター 『TASC MONTHLY』2023年8月号)	2023. 8
	論文(単著)	「坂本龍一のメディア論的思考——一九八〇年代、なぜ未来派に惹かれたのか」(青土社『ユリイカ』2023年12月臨時増刊号)109-119頁	2023.11
	論文(単著)	「テレビ共聴、自主放送、CATV—難視聴対策からニューメディアへ」(NHK出版『放送メディア研究』第17号)165-183頁	2024. 3
	研究発表等 (単独)	「メディア研究をめぐる教科書文化の課題と展望」(第2回メディアスタディーズ・フォーラム「教科書ってなんだらう：メディア研究を支えるメディアのゆくえ」)	2023. 4
	研究発表等 (共同)	「コンピューティングの歴史社会学の可能性：社会を支えるインフラ・思想としての「計算」」(飯田豊・林凌・前山和喜, 日本メディア学会春季大会)	2023. 6
	研究発表等 (共同)	アレクサンダー・ザルテン教授へのコメント (〈視聴者〉の系譜：ある文化的主体の科学技術的形成 (Techniques of the Shichōsha: On the Technoscientific Formation of Cultural Subjects))	2023. 6
	研究発表等 (単独)	「芸能とメディアの関係史 —「演者／観客」から「送り手／受け手」へ」(日本史研究会「歴史から現在 (いま)を考える集い」)	2024. 2

飯田 豊	その他 (共同講演)	「流されるままに選択していない？ その選択、ダイジョウブ？」(竹田ダニエル・藤嶋陽子, 立命館大学教養教育センターみらいゼミ関連企画)	2023. 6
	その他(単著)	「KDDIの関連事業を J:COM に集約 ケーブルテレビ界 これまでの歩みと展望」(日本民間放送連盟民放 online)	2023. 9
	その他 (単独講演)	「「テレビ離れ」で社会はどのように変わるか」(宮水学園)	2024. 1
	その他 (単独講演)	「『杉浦康平と写植の時代』をメディア論として読む」(阿部卓也『杉浦康平と写植の時代』書評会)	2024. 1
	その他 (共同講演)	「Algorithmic Couture Alliance —— デジタルとファッションをめぐる対話」(蘆田裕史・井上雅人・飯田豊・津川恵理・宇川直宏・藤嶋陽子・佐野虎太郎・川崎和也, SUPER DOMMUNE)	2024. 3
	その他(単著)	「中高生モニターとともに、放送の未来を考える」(放送倫理・番組向上機構[BPO]『BPOの20年そして放送のこれから』)88-94頁	2024. 3
	その他(共著)	「放送メディアと放送技術の未来像(座談会)」(飯田豊・市原えつこ・ペリー・荻野・藤沢寛, NHK 出版『放送メディア研究』第17号)377-413頁	2024. 3
	その他(単著)	ユッシ・パリッカ『メディア考古学とは何か？—デジタル時代のメディア文化研究』梅田拓也・大久保遼・近藤和都・光岡寿郎訳(東京大学出版会、2023年)書評(社会情報学会『社会情報学』12巻3号)59-60頁	2024. 3
石田賀奈子	著書(共著)	『基礎から考える社会保障』(村田隆史・長友薫輝・曾我千春 他, 自治体研究社)147-162頁	2024. 3
	論文(単著)	「逆境体験を経て大人になる子どもへの支援」(大学教育出版『季刊ふくしと教育』38号)26-29頁	2024. 3
	研究発表等 (共同)	「大学における生活に困窮した大学生への支援の実際—コロナ禍の影響を含む横断調査の結果に基づいて」(長沼洋一・長沼葉月・石田賀奈子, 日本社会福祉学会第71回秋季大会)	2023.10
	研究発表等 (共同)	「児童期逆境体験が学校生活に与える影響に関する検討」(大澤ちひろ・和田一郎・石田賀奈子, 日本子ども虐待防止学会第29回学術集会)	2023.11
	その他(共同)	「ACEを経験した子どもの理解とアドボカシー—児童福祉におけるアドボカシー活動の専門性の確立にむけて—」(日本子ども虐待防止学会第29回学術集会にて開催)	2023.11
石田 智巳	著書(分担執筆)	『日本の民主教育2023 (みんなで21世紀の未来をひらく教育のつどい—)』(教育研究全国集会2023実行委員会編, 大月書店)194-196頁	2024. 1
	著書(分担執筆)	『新版 スポーツの主人公を育てる体育・保健の授業づくり』(創文企画)48-51頁	2024. 3
	研究発表等 (共同)	「体育授業における矛盾とその克服を目指す学習—エンゲストロームの活動システムモデルに着目して—」(石田智巳・制野俊弘・加登本仁, 日本教科教育学会第49回大会)	2023.10
	研究発表等 (共同)	「体育授業における矛盾の意図的創出による共同学習の可能性—エンゲストロームの活動システムモデルによる分析—」(制野俊弘・石田智巳・加登本仁, 日本教科教育学会第49回大会)	2023.10
市井 吉興	著書(監修)	「Opinion [主張] ライフスタイルスポーツとスポーツの「地殻変動」」(創文企画『現代スポーツ評論49 ライフスタイルスポーツの「風景」』, 編集責任: 市井吉興) 8-16頁	2023.11
	論文(単著)	“The capitalist realism of the 2020 Tokyo Olympic games” (Routledge Contemporary Japan, 35(1)) 58-72頁	2023. 4

伊東 寿泰	その他(単著)	「定年退職を迎えるにあたって」(『さんしゃ Zapping』Vol.38 No.2, 通巻205号) 2-6頁	2024. 3
上原 徳子	論文(単著)	「現代における中国古典小説受容一候孝賢監督による映画『刺客聶隱娘(黒衣の刺客)』を題材として」(『立命館言語文化研究』35巻1号)193-210頁	2023. 9
江口 友朗	研究発表等 (単独)	「アジア「環境—福祉」国家アプローチ 確立のための一試論：理論と実証の架橋に向けて」(安藤順彦・田中啓太との順不同報告, 進化経済学会：第28回全国大会)	2024. 3
呉 世雄	論文(単著)	「コロナ禍が介護老人福祉施設の地域貢献活動に及ぼした影響—2016年と2022年の実態調査を基に」(日本地域福祉学会『日本の地域福祉』第37巻) 87-98頁	2024. 3
	研究発表等 (単独)	“Organizational Factors for Wasteful Work and Their Effects in Japanese Nursing Homes: Focusing on Organizational Culture and QWL of Care Workers” (Society for Social Work and Research 2024 Conference)	2024. 1
大谷いづみ	論文(共著)	「特集趣旨」(大谷いづみ・川端美季, 『立命館生存学研究』7号)85-88頁	2023. 9
	論文(共著)	「「障害のある教員」の職場復帰のプロセスと課題」(大谷いづみ・川端美季, 『立命館生存学研究』7号)89-109頁	2023. 9
	論文(単著)	「立岩真也さんと生存学のこと」(総特集 立岩真也1960-2023)(『現代思想』52(3))223-228頁	2024. 2
	研究発表等 (共同)	「『PLAN 75』上映会&トークイベント報告」(大谷いづみ・川端美季, AHEAD JAPAN CONFERENCE 2023, 立命館大学いばらきキャンパス)	2023. 9
	研究発表等 (共同)	“Report on the PLAN 75 : Screening and Discussion Event” (OTANI Izumi et KAWABATA Miki, East Asia Disability Studies Forum 2023)	2023.10
	研究発表等 (共同)	「『PLAN 75』上映会&トークイベントとアクセシビリティ：「障害」支援と教学の未来を拓く教職協働の試み」(大谷いづみ・川端美季ほか, 教育開発DX/ピッチ・最終報告会 (D.I.G.), 立命館大学大阪いばらきキャンパス)	2024. 2
	研究発表等 (共同)	「立命館アジア太平洋大学・別府における車いすの移動アクセシビリティ」(大谷いづみ・川端美季ほか, 教育開発DX/ピッチ・最終報告会 (D.I.G.), 立命館大学大阪いばらきキャンパス)	2024. 2
	研究発表等 (共同)	「日韓ユニバーサルツーリズムにおける移動困難者とサポーターによる実践報告」(安田智博・高雅郁・ユ ジンギョン・大谷いづみ, シンポジウム「アクセシビリティと“??”—生活・空間・モノ・社会デザイン、そして実践から考える—」, 立命館大学朱雀キャンパス)	2024. 3
	その他 (単独講演)	「「生命倫理」から見える現代社会——学問と現場、理論と実践を往還する」(全国学生社会科学系研究会連絡会議 夏季ゼミ, 立命館大学大阪いばらきキャンパス)	2023. 9
	その他 (コメント)	中山直樹「映画 PLAN75の「未来」避けるには「簡単な処方箋はなくても」(8かけ社会)」(朝日新聞 DIGITAL, 2024年1月13日)	2024. 1
大谷 哲弘	著書(分担執筆)	『公認心理師必携！事例で学ぶ教育・特別支援のエビデンスベースト・プラクティス』(一般社団法人公認心理師の会 教育・特別支援部会監修, 金剛出版)112-115頁	2024. 3
	論文(共著)	「非線形回帰式による東日本大震災における児童生徒の震災トラウマ収束の予測」(山本奨・大谷哲弘, 『心理臨床学研究』vol.41 No.5)496-501頁	2023.12

大谷 哲弘	論文(共著)	「ロジスティック関数を用いた多項式による不登校児童生徒の在籍率の推移の検討」(山本奨・大谷哲弘・本田卓, 『岩手大学教育学部研究年報』第83巻)121-130頁	2024. 3
	研究発表等 (共同)	「新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)の感染拡大が 児童生徒に与えた影響 —2022年9月までの要支援者率・数の推移—」(山本 奨・大谷哲弘, 日本教育心理学会第65回総会)	2023. 9
大野 威	論文(単著)	「1130-1212年 イングランドにおける職人ギルドの誕生とロンドンの賃金規制条例」(『立命館産業社会論集』第59巻第3号) 1-12頁	2023.12
岡田 まり	著書(共編著者)	『実践スーパービジョン』(浅野正嗣・岡田まり・小山隆・野村豊子・宮崎清恵, 中央法規出版)	2023. 6
	論文(単著)	「社会福祉士とソーシャルワーク教育」(中央法規出版『ソーシャルワーク研究』第3号)183-191頁	2023. 7
	研究発表等 (共同)	「スーパーバイザー養成研修の理論的枠組み～スーパーバイザー養成研修のモデル構築をめざして～」(岡田まり・野村豊子・片岡靖子・潮谷恵美, 日本ソーシャルワーク学会第40回大会)	2023. 7
	研究発表等 (共同)	「スーパーバイザーのコンピテンシー —福祉専門職のスーパーバイザー養成研修のモデル構築をめざして—」(岡田まり・野村豊子・片岡靖子・潮谷恵美, 日本社会福祉学会第71回秋季大会)	2023.10
岡本 尚子	著書(分担執筆)	『初等算数科教育法序論』(黒田恭史編, 共立出版)47-71, 229-251頁	2023. 8
	論文(単著)	「算数文章問題における場面を想像できることの重要 —日本語指導を必要とする児童を対象とした事例研究—」(『立命館産業社会論集』第59巻第4号) 1-13頁	2024. 3
	研究発表等 (共同)	「経験の違いが危険判断時の着眼点に違いをもたらすのか—キャンプ活動場面の視線計測—」(岡本尚子他, 第41回日本生理心理学会)	2023. 5
	研究発表等 (単独)	「外国にルーツを持つ児童の算数文章問題におけるつまづき —状況を想像できることの重要性—」(第36回日本保健福祉学会学術集会)	2023. 9
	研究発表等 (単独)	「教師の指導技術は視線データにどのように表れるのか」(2023年度日本生理人類学会フロンティアミーティング (秋期))	2023.11
御旅屋 達	論文(単著)	「大阪府「定着支援事業」から見る高卒就職後の課題」(『社会政策』第15巻第2号)61-72頁	2023.11
	論文(単著)	「自己実現に対する態度」(『現代若者の再帰的ライフスタイルの諸類型とその成立条件の解明 (2019年度～2023年度 科学研究費基盤研究A 成果報告書)』)86-87頁	2024. 3
	研究発表等 (単独)	「地域は高卒生の就労をいかに支えられるか」(社会政策学会第147回大会)	2023.10
角田 将士	論文(単著)	「それはよい発問? 社会科発問づくり ハマリやすいNGポイント」(明治図書『社会科教育』769)18-21頁	2023. 5
	論文(単著)	「ポートフォリオを活用した学習方法と学習評価—様々なレベルでの活用を意識して—」(日本文教出版編『社会科 NAVI+』) 1- 6 頁	2023. 9
	論文(単著)	「名著&最新事例でわかる! 必ず読みたい「読書」ガイド 歴史的分野の授業づくり「思考を促す魅力ある授業をめざして」(明治図書『社会科教育』774)62-63頁	2023.10
	論文(単著)	「『戦争と平和』を社会科で教えるということ—これからの授業づくりに求められる視点—」(日本文教出版編『社会科 NAVI』Vol.36) 4- 5 頁	2024. 1

角田 将士	研究発表等 (単独)	「高等学校における学習指導と主体性評価の視点と方法—日本史を対象とした清水智貴実践の特色と課題—」(社会科主体性評価研究会)	2023. 7
	研究発表等 (単独)	「新たな市民性育成教育の『再構築』に向けて—研究チーム・国別チームに期待すること—」(全国社会科教育学会 ISSA 連携フォーラム)	2023. 8
	その他 (単独講演)	「学校で戦争を教えるということ—社会科教育は何をなすべきか—」(熊本県 NIE 推進協議会講演会)	2023. 5
	その他 (単独講演)	「これからの社会系教科授業に求められるもの—『見方・考え方』の成長を意識した授業づくり—」(大分県高等学校教育研究会地理歴史・公民部会)	2023. 6
	その他 (単独講師)	「社会科教員指導力向上講座③: 主体的な学びを生み出す社会科の単元構想と授業づくりに向けて」(京都市総合教育センター)	2023. 7
	その他 (単独講演)	「これからの社会科授業に求められるもの—『見方・考え方』の成長を意識した授業づくりとその見取り—」(大分県中学校教育研究会社会科部会 第54回夏季研修会)	2023. 8
	その他 (単独講演)	「これからの社会科授業に求められるもの—『見方・考え方』の成長を意識した授業づくりとその見取り—」(第16回近畿中学校社会科教員交流会)	2024. 2
柏木 智子	著書(編者 (編著者))	『子どもの思考を深める ICT 活用—公立義務教育学校のネクストステージ』(晃洋書房)	2023. 6
	著書(編者 (編著者))	『「探究学習」とは—学びの「今」に向き合う』(清水優菜・村松灯・田中智輝・荒井英治郎・大林正史・松村智史・古田雄一・武井哲郎, 晃洋書房)	2024. 1
	著書(分担執筆)	「第6章第3節 事例から見る高等学校「総合的な探究の時間」の現在」「第8章 コミュニティづくりと子どもの参加」「第13章 コミュニティにおける教育と福祉」(放送大学『コミュニティと教育』)95-103, 119-140, 195-210頁	2024. 3
	著書(分担執筆)	「困難を抱える子どもの学びへの参加を促す ICT 活用—ケアする関係の形成と言葉による意思表示に着目して」(卯月由佳・露口健司・藤原文雄『公正で質の高い教育に向けた ICT 活用』)195-215頁	2024. 3
	論文(単著)	「公正な社会の形成に資する学校と教員の役割—社会の分断を防ぐケア論に着目して」(世織書房『教育学年報』14)183-204頁	2023. 8
	論文(単著)	「「誰一人取り残さない学校」とは、どんな学校か」(教育開発研究所『教職研修』9月号)20-21頁	2023. 9
	論文(単著)	「これからの校長の資質・能力」(教育開発研究所『教職研修』10月号)56-57頁	2023.10
	論文(単著)	「新型コロナウイルス感染症下での ICT 導入にみられる教育長の平等観と取組および校長の実践に関する研究—公正概念に着目して」(日本教育制度学会『日本教育制度学会創立30周年記念 日本教育制度学会紀要 特別号』)457-475頁	2023.11
	論文(共著)	「子どもの貧困対策としての学校と地域の連携方策—地域連携担当教職員に焦点をあてて」(柏木智子・諏訪英広・真弓(田中)真秀, 日本学校改善学会『学校改善研究紀要』6巻)1-14頁	2024. 3
	研究発表等 (共同)	「社会情動的能力の育成を促進する学校マネジメントに関する研究」(日本教育経営学会第63回大会自由研究発表)	2023. 6
	研究発表等 (共同)	「社会情動的能力の育成に関する国際比較研究—政策文書等の分析を中心に」(佐藤博志・本所恵・西野倫世・小野まどか・吉川麻絵, 日本カリキュラム学会第34回大会自由研究発表)	2023. 7
	研究発表等 (単独)	「「個別最適な学び」と義務教育—審議会等での論点と課題」(日本教育政策学会第30回大会課題研究)	2023. 7



柏木 智子	研究発表等 (共同)	「グローバル時代における校長のリーダーシップ研究に関する考察 — International Successful School Principalship Project に焦点をあてて」(佐藤博志・柏木智子・西野倫世・小野まどか, 日本教育行政学会第58回大会自由研究発表)	2023.10
	その他 (単独講演)	「子どもの貧困と「ケアする学校」づくり」(京都市弁護士会学習会)	2023. 7
	その他 (単独講演)	「子どもの貧困と「ケアする学校」づくり」(全国高等学校教頭・副校長会近畿地区連絡協議会)	2023.10
	その他 (単独講演)	「「ケアする学校」—互いに支え合う関係を重視した学校づくりをめざして」(京都市教育委員会人権教育講座)	2023.11
	その他 (単独講演)	「子どもの貧困と「ケアする学校」づくり」(人権研修講座)	2023.11
	その他 (単独講演)	「学習支援とケア」(さいたまユースサポートネット)	2023.12
	その他 (単独講演)	「困難を抱える子どもと「ケアする学校」—子どもの人権・尊厳の保障に向き合う社会づくりへ」(科学研究費「尊厳概念のアクチュアリティ」尊厳学C1班 第2回ワークショップ)	2024. 1
	その他 (単独講演)	「「キミの過去はキミの未来を決めない」～知る見る変える子どもの貧困今私たちにできること～」(第53回憲法と人権を考える集い)	2024. 1
その他 (単独講演)	「子どもの貧困とケアする学校・地域づくり—事務職員の役割—」(豊岡市小中学校事務研究会)	2024. 2	
加藤 潤三	論文(共著)	「地方移住における移住者の適応および地元住民の受容とソーシャルキャピタルとの関連：島嶼地域沖縄における地方移住」(加藤潤三・前村奈央佳, 琉球大学島嶼地域科学研究所『島嶼地域科学』第4号) 1-17頁	2023. 6
	論文(共著)	「地方移住をやめるとき：計量テキスト分析による移住の中断要因の検討」(加藤潤三・前村奈央佳, 『立命館産業社会論集』第59巻第3号) 55-72頁	2023.12
加藤 雅俊	論文(単著)	「『半議院内閣制』としてのオーストラリア連邦：強力な二院制が生み出す固有の政治的論理?」(勁草書房『年報政治学』2023- I) 150-177頁	2023. 6
	論文(単著)	書評：社会政策学や比較福祉国家研究の世界標準を学び、最前線に触れる(『社会政策の考え方—現代世界の見取図』)(有斐閣『書齋の窓』No.690) 71-76頁	2023.11
	論文(単著)	「現代社会が直面する諸課題に対して政治学が貢献できること：立命館大学人文科学研究所以での共同研究を手がかりとして」(『立命館大学人文科学研究所以紀要』NO.138) 93-104頁	2024. 3
	論文(単著)	「資本主義的民主主義の要諦としての「福祉国家」とその変容」(『立命館大学人文科学研究所以紀要』NO.139) 131-164頁	2024. 3
	論文(単著)	「緊縮国家の政治的帰結—オーストラリアを事例として—」(『立命館大学人文科学研究所以紀要』NO.139) 165-194頁	2024. 3
	論文(単著)	書評：デイヴィッド・ガーランド (小田透訳)『福祉国家—救貧法の時代からポスト工業社会へ—』(白水社, 2021年)(『立命館大学人文科学研究所以紀要』NO.139) 61-72頁	2024. 3
	研究発表等 (共同)	「司法的解決を越えて—アンケート調査から考える諫早湾干拓紛争の社会的処理の可能性と課題—」(開田奈穂美・加藤雅俊, 日本法社会学会2023年度学術大会)	2023. 5

加藤 雅俊	研究発表等 (共同)	“The Changing Relationship Between Politicians and Bureaucrats in Japan: a Focus on Personal History of Government Official” (Kato, Masatoshi and Tokuhisa Kyoko, Canadian Political Science Association 2023 Conference)	2023. 6
	研究発表等 (単独)	“Merits and Limits of the Judicial System As a Form of Conflict Resolution System in Japan: The Case of Social Conflict in Isahaya City” (International Sociology Association Conference 2023)	2023. 6
	研究発表等 (単独)	“Towards building the mechanism of conflict resolution: the Limits of the Judicial System on social conflict in Case of the State-owned Isahaya Bay Reclamation Project” (Australian Political Science Association Conference 2023)	2023.11
	研究発表等 (単独)	“Transformations and Dynamics of an Employment-based Welfare State: Japan and Australia in Comparative Perspective” (Australian Political Science Association Conference 2023)	2023.11
	研究発表等 (単独)	「比較福祉国家研究の到達点と課題—政治学からの問題提起—」(進化経済学会「現代日本の経済制度」部会)	2024. 2
金澤 悠介	研究発表等 (共同)	「福祉国家の変容と「新しい」リベラル：社会調査による検討」(金澤悠介・橋本努, 第96回日本社会学会大会)	2023.10
金山 千広	著書(分担執筆)	『図とイラストで学ぶ 新しいスポーツマネジメント 改訂版』(大修館書店)	2024. 3
金子 史弥	研究発表等 (単独)	「スポーツ政策における「エビデンスに基づく政策立案」の実践と課題——英国の事例」(日本体育・スポーツ・健康学会 第73回大会)	2023. 8
川崎 聡大	論文	「小学生の保護者を対象とした現代的な子育て観と子どもの学習状況との関連に関する探索的検討 —地域社会における成人交流人数にも着目して—」(神谷哲司・荻布優子・松崎泰・川崎聡大, 東北大学大学院教育学研究科『東北大学大学院教育学研究科研究年報 = Annual Report Graduate School of Education, Tohoku University』第71集第2号)127-150頁	2023. 6
	論文	「「正しく整った文字」を書くことは学力に関連するか — 2種の漢字採点基準における書き成績と学力との関係の比較—」(荻布優子・川崎聡大・奥村智人・松崎泰, 一般社団法人日本特殊教育学会『特殊教育学研究 advpub』61巻3号)123-132頁	2023.11
	論文(共著)	「総説 幼児吃音の実行機能に関する研究の文献レビュー」(角田航平・川崎聡大, 株式会社医学書院『言語聴覚研究』Vol.21 No.1)22-31頁	2024. 3
	その他 (単独講演)	教育講演①:「ことばの発達と支援のありかた」(日本発達障害学会 第58回研究大会教育講演)	2023.11
	その他 (単独講師)	発達障害の理解と支援 —教育的評価に医療の専門性を活かす関り—」(高知県発達障害早期支援エキスパート事業養成研修講師)	2023.12
権 学俊	研究発表等 (単独)	「現代日本の排外主義」(市民教養大学特別講演【教育部・韓国学術財団・提川市】)	2023.11
	その他(単独)	「国内スポーツ発展の起点 皇室奨励、現代に成果」(『大阪日日新聞』)	2023. 5
	その他(単独)	「大阪・極東選手権から100年—皇室 スポーツ奨励象徴に」(『京都新聞』)	2023. 5
	その他(単独)	「スポーツ奨励 新たな皇室像」(『四国新聞』)	2023. 5
	その他(単独)	「シリーズ戦争と人権 植民地なき植民地支配」(『しんぶん 赤旗』)	2023. 9
	その他(単独)	「耕論 話そう 神宮外苑のこと かつては帝国統治の舞台」(『朝日新聞』)	2023. 9
	その他(単独)	政治プレミア 「象徴天皇制の基盤を築いた国民体育大会の「仕組み」」(『毎日新聞』)	2023.12
	その他(単独)	政治プレミア 「沖縄の「同化」迫った沖縄海邦国体」(『毎日新聞』)	2024. 3

黒田 学	論文(共著)	「ベトナムにおける障害児教育・福祉の動向と課題 ―ハノイとホーチミン市の事例調査を通じて―」(黒田学・伊井勇・岡ひろみ・平沼博将・向井啓二, 『立命館産業社会論集』第59巻第1号)319-336頁	2023.6
近藤 和都	著書(分担執筆)	『吉見俊哉論——社会学とメディア論の可能性』(難波功士・野上元・周東美材, 人文書院)223-247頁	2023.5
	著書(共訳)	『メディア考古学とは何か? ——デジタル時代のメディア文化研究』(梅田拓也・大久保遼・近藤和都・光岡寿郎・光岡寿郎, 東京大学出版会)	2023.7
	著書(分担執筆)	『メディア・リミックス——デジタル文化の〈いま〉を解きほぐす』(谷島貴太・松本健太郎, ミネルヴァ書房)77-91頁	2023.10
	著書(その他)	『映画人が語る 日本映画史の舞台裏 [構造変革編]』(谷川建司, 森話社)	2023.10
	論文(単著)	「宮崎駿とオフ・スクリーンのメディア史——『君たちはどう生きるか』の宣伝戦略が浮き彫りにしたもの」(『中央公論』(10))	2023.10
	研究発表等	「Lisa Gitelman のメディア研究をめぐって」(新倉貴仁・梅田拓也報告, 近藤和都司会, 日本メディア学会春季大会)	2023.6
	研究発表等	「アニメと場所の社会学 (3)——1980年代における流通とインフラの再編成」(第96回日本社会学会大会)	2023.10
研究発表等	「アーカイブとメディア研究を往還する」(テレビジョン・アーカイブスを再想像する: 科学技術とメディア論から考える未来)	2023.12	
斎藤 真緒	論文(単著)	「ヤングケアラー支援の課題」(慶応義塾大学出版会『教育と医学』816号)4-10頁	2023.4
	論文(単著)	「『子ども・若者ケアラー』をとりまく現状とジェンダー・家族」(『We learn』829)4-7頁	2023.5
	論文(単著)	「ヤングケアラーはどんな「問題」なのか—ケアラー支援との接続に向けた視座—」(白梅女子大学『子ども学』11号)153-172頁	2023.5
	論文(単著)	“Male Caregivers in Japan: Between Care and Masculinity, in: Tanaka Kimiko and Herain Selin (eds.)” ( <i>Sustainability, Diversity, and Equality: Key Challenges for Japan</i> . Springer Berlin) pp.425-437.	2023.7
	論文(単著)	「ヤングケアラー支援の課題」(東山書房『健康教室』877号)26-29頁	2023.12
	論文(単著)	「イギリスの学校ではどんな取り組みをしているのか?」(仲田海人・門田行史編, 学事出版『ヤングケアラーの理解と支援 見つける・理解する・知ってもらう』)145-151頁	2024.3
	論文(単著)	「日本におけるヤングケアラーの政治アジェンダ化の行方」(奈良女子大学アジア・ジェンダー文化学研究センター『アジア・ジェンダー文化学研究』vol.8)13-19頁	2024.3
	研究発表等(共同)	“Public interest in Young Carers in Japan: Issues of support for carers in the Familialistic Welfare Regime” (Mao Saito, Yu Kasai, Yuki Kameyama, 6th Transforming Care Conference, Sheffield University)	2023.6
	研究発表等(単独)	「『ヤングケアラー』問題の社会的構築のゆくえ—ケアラー支援の射程と課題—」(第46回唯物論研究会大会, 立命館大学びわこくさつキャンパス)	2023.11
	研究発表等(単独)	「ヤングケアラー支援の課題と展望」第29回こども虐待防止学会「分科会 児童家庭支援センターやNPO等によるヤングケアラー支援の困難性と可能性」(立命館大学びわこくさつキャンパス)	2023.11
その他(書評)	「人生を語ること、聞くこと、読むことについて 岸政彦編『生活史論集』」(『立命館アジア・日本研究学術年報』第4号)107-110頁	2023.8	
坂田 謙司	著書(単著)	『「音」と「声」の社会史—見えない音と社会のつながりを観る』(法律文化社)	2024.3



桜井 啓太	論文	「生活保護と非正規・委託問題」(福祉社会学会『福祉社会学研究 = Journal of welfare sociology』20巻)105-124頁	2023. 5
	論文	「ケースワークの外部委託をする前に：外部委託・分業・保護複合体の理論的整理—特集 ケースワークの外部委託問題を考える」(貧困研究会『貧困研究 = Journal of poverty』30号)42-53頁	2023. 6
	論文	「まず「子育て罰」をなくしていこう—着実な子育て支援にむけて」(自治労サービス『月刊自治研』vol.65 no.766)18-24頁	2023. 7
	論文(単著)	「ヤングケアラー問題をめぐる視座：貧困と労働の視点の欠如—」(生活経済政策研究所『生活経済政策』No.321)18-23頁	2023.10
櫻井 純理	その他(共同)	「福祉・労働を架橋する政策のガバナンスに関する国際比較研究—北欧と日本の地域政策」(デンマーク調査報告書)	2024. 3
鎮目 真人	著書(分担執筆)	『福祉と協働』(金子勇・吉原直樹代表編者, 三重野卓編著, ミネルヴァ書房)	2023. 9
	著書(分担執筆)	『福祉社会学文献ガイド』(福祉社会学会編集)	2023.11
	論文(単著)	(書評)金成垣著『韓国福祉国家の挑戦』(学文社『福祉社会学研究』20)242-247頁	2023. 5
	研究発表等(単独)	「年金制度における不人気改革 — 「2004年年金改革」以降を中心として—」(日本公共政策学会2023年度研究大会)	2023. 6
	研究発表等(単独)	「試行錯誤の国際的学術研究・発表」(社会政策学会146回大会)	2023. 6
	研究発表等(単独)	“Focal Points in Japan's 2025 Public Pension Reform: Focusing on unpopular reforms since the 2004 pension reform” (Korea Pension Association, National Pension Research Institute, and Korea Institute for Health and Social Affairs, 2023 Joint Project Academic Conference)	2023.12
篠原 郁子	著書(単著)	『子どものころは大人と育つ：アタッチメント理論とメンタライジング』(光文社新書)	2024. 3
	著書(分担執筆)	「乳幼児期の親子関係と社会性の発達」(長谷川真里(編著)・佐久間路子(編著)・林創(編著), ナカニシヤ出版『社会性の発達心理学』)45-63頁	2024. 3
	著書(編者(編著者))	「社会情緒的(非認知)能力の発達と環境に関する研究：教育と学校改善への活用可能性の視点から」発達調査チーム研究報告書(研究代表者：大金伸光, 発達調査チーム長：篠原郁子, 国立教育政策研究所)	2024. 3
	著書(分担執筆)	『よくわかる！教職エクササイズ③教育相談(第2版)』(森田隆宏・吉田佐治子(編著), 篠原郁子 他, ミネルヴァ書房)93頁	2024. 3
	研究発表等(単独)	「学力とは何か：あらためて心理学から問い直す」(学会企画シンポジウム「学力とは何か—あらためて心理学から問い直す—」指定討論, 日本教育心理学会第65回総会)	2023. 8
	研究発表等(単独)	「非認知能力の可能性：教育心理学的視座からの検討」(自主シンポジウム「認知と非認知のあいだ」話題提供, 日本教育心理学会第65回総会)	2023. 8
	住家 正芳	論文(単著)	「The Straits Chinese Magazine における林文慶の宗教理解」(『立命館産業社会論集』第59巻第4号)121-133頁
住田 翔子	論文(単著)	「地図を描く？—メディア論的アプローチによるバルクール試論—」(創文企画『現代スポーツ評論』49)52-62頁	2023.11

住田 翔子	論文(単著)	“Ruins and creativity: Focusing on environmental development and cultural policies in Japan since the 1980s” (International Institute of Language and Culture Studies, Ritsumeikan University Ritsumeikan Studies in Language and Culture 35(3)) 39-47頁	2024. 3
	研究発表等 (単独)	“Ruins and “creativity”: focusing on environmental development and cultural policy in Japan since the 1980s” (the 17th International Conference of the European Association for Japanese Studies)	2023. 8
孫 片田 晶	研究発表等 (単独)	大会シンポジウム「社会学と在日朝鮮人研究」コメンテーター（関西社会学会大会第74回年次大会）	2023. 5
	研究発表等 (単独)	「連帯の中のカテゴリー——ウトロを守る運動で紡がれた人と人の関わり」（日本移民学会第33回年次大会）	2023. 6
	研究発表等 (共同)	「出会いの場を残し、発信する——ウトロ平和祈念館」(全ウンフィとの共同発表, 国際高麗学会日本支部第27回学術大会シンポジウム「アーカイブの中の『在日』」)	2023. 6
高橋 顕也	論文(単著)	“An Essay on Mathematical Structures of the Concepts of Medium, Form, Time and System in Sociological Systems Theory” (Ritsumeikan Social Sciences Review 59(4)) 135-143頁	2024. 3
	論文(単著)	「社会は加速できない ——社会学のシステム理論と社会的加速理論の両立可能性について——」(慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所『メディア・コミュニケーション』74) 19-28頁	2024. 3
	研究発表等 (単独)	「社会は加速できない ——社会学のシステム理論と社会的加速理論の両立可能性について——」(第96回日本社会学会大会)	2023.10
武岡 暢	論文(単著)	「阪口毅著『流れゆく者たちのコミュニティ——新宿・大久保と「集会的な出来事」の都市モノグラフ』(ナカニシヤ出版、2022年)」(『東信堂地域社会学会年報』35) 106-107頁	2023. 5
	研究発表等 (単独)	“Why does a red-light district exist in the era of neoliberal urban policies?: A case of Kabukicho in Tokyo, Japan” (Modern East Asia: Japan seminar)	2023.12
武田 淳	論文(単著)	“Intimate mobilities — International (transnational) marriage and migration: Japanese marriage migrants floating between Japan and Korea.” (WILEYSociology Compass)	2023
	研究発表等 (単独)	“The Intersection of Travel, Work and Migration: Challenges and prospects for the case of Niseko, a ski resort in Hokkaido” (U: Japan Lectures)	2023.11
竹濱 朝美	論文(共著)	「再生可能エネルギー電力比率60%達成に必要な風力発電導入量とデマンドレスポンスの必要規模に関する簡易解析」(竹濱朝美・歌川学, 『日本風力エネルギー学会第45回風力エネルギー利用シンポジウム (日本風力エネルギー学会発表原稿集)』45) Submission No.:C000094	2023.12
	論文(共著)	「再生可能電源比率60%と石炭火力廃止の可能性をめぐる検討, 簡易モデルによる試算」(竹濱朝美・歌川学, 『エネルギー・資源学会第40回エネルギーシステム・経済・環境コンファレンス (エネルギー資源学会, 原稿集)』40) 385-390頁	2024. 1
	論文(単著)	「2030年までの石炭火力廃止に向けて, COP28からのメッセージ」(日本環境学会『人間と環境』第50巻第1号) 1-2頁	2024. 2

竹濱 朝美	研究発表等 (共同)	「家庭、業務、産業の部門別電力需要とデマンドレスポンス利用可能量の推定の試み、電力需給バランスの試算」(竹濱朝美・歌川学, 日本環境学会第49回研究発表会)	2023. 6
	研究発表等 (共同)	「2030年の電力需給、石炭火力の廃止、再生可能電力60%の可能性に関する検討」(竹濱朝美・歌川学・安田陽, 環境経済・政策学会2023年大会)	2023. 9
	研究発表等 (共同)	「再生可能エネルギー電力比率60%達成に必要な風力発電導入量とデマンドレスポンスの必要規模に関する簡易解析」(竹濱朝美・歌川学, 第45回風力エネルギー利用シンポジウム)	2023.12
谷原 吏	論文(共著)	「わが国における誹謗中傷の実態調査」(山口真一・谷原吏・大島英隆, (国際大学『GLOCOMInnovation Nippon 2022 報告書』)	2023. 4
	論文(共著)	「偽・誤情報、陰謀論の実態と求められる対策」(山口真一・谷原吏・大島英隆, (国際大学『GLOCOMInnovation Nippon 2022 報告書』)	2023. 5
	論文(共著)	“Literacy is necessary to understand Fact-Checking: An empirical research with survey experiments” (Tsukasa Tanihara, Shinichi Yamaguchi, 社会情報学会 Journal of Socio-Informatics 16(1)) 33-46頁	2023. 9
	研究発表等 (単独)	「メディア研究の国際競争のために: オンライン政治参加を事例として」(第96回日本社会学会大会)	2023.10
	研究発表等 (共同)	「陰謀論を信じる経路に関する分析」(村山太一・谷原吏・宮崎邦洋・松井暉, 第3回計算社会科学学会大会)	2024. 2
田村 和宏	著書(単著)	「今後の障害児通所支援について考える」(独立行政法人福祉医療機構『W A M』708) 6-7頁	2023.12
	著書(共著)	「切れ目のない一貫性があるケアと生活をつくるために」(荒木敦・尾瀬順次・平田義・高田哲・三品浩基ほか, クリエイツかもがわ, 『ライフステージを通しての『医療的ケア』』)	2024. 2
	著書(共著)	「学校卒業後の暮らしを展望する—医療的ケアが必要な大人の生活・暮らしを営むところでの課題(まとめ)」(荒木敦・尾瀬順次・平田義・高田哲・三品浩基ほか, クリエイツかもがわ, 『ライフステージを通しての『医療的ケア』』)	2024. 2
	論文(単著)	「障害児福祉制度から成人制度への移行における課題—障害児入所施設における「過齢児」の移行支援の検討—」(国立社会保障・人口問題研究所2023『社会保障研究』第8巻第2号)191-203頁	2023. 9
	論文(単著)	「障害のある子どもを取り巻く環境をどう豊かにするか—子どもの権利を守るつながりづくりとそこでの公的責任性—」(公益財団法人日本知的障害者福祉協会『support(さぽーと)』第70巻第10号)17-19頁	2023.10
	研究発表等 (共同)	重症心身障害児(者)や医療的ケアが必要な人のグループホームでの生活を成立させる要件について」(田村和宏・口分田政夫, 第48回日本重症心身障害学会学術集会)	2023.10
	その他 (調査研究)	「こども家庭庁 令和5年度子ども・子育て支援等推進調査研究事業『児童発達支援センターの中核的機能スタートアップマニュアル等 作成に関する調査研究(報告書)』」	2024. 3
	その他 (調査研究)	「こども家庭庁 令和5年度子ども・子育て支援等推進調査研究事業『障害児支援における安全管理に関する調査研究(報告書)』」	2024. 3
	丹波 史紀	論文(単著)	「生活再建の複線化を実現する復興政策を」(一般社団法人日本住宅協会『住宅』72)23-28頁

丹波 史紀	論文(単著)	「原子力災害における被災者の生活再建に関する調査研究：第3回双葉郡住民実態調査の結果から」(大阪公立大学経済研究会『季刊経済研究』Vol.42 No.1-3) 3-21頁	2023.12
筒井 淳也	著書(共編著者)	「2章 コロナ・パンデミックとジェンダー格差」(東京大学出版会『災禍の時代の社会学：コロナ・パンデミックと民主主義』)	2023.7
	著書(共著)	「変化する社会と向き合う社会学」(筒井淳也・北田暁大, 岩波書店, 岩波講座社会学『理論・方法』)283-300頁	2023.9
	著書(単著)	『未婚と少子化 この国で子どもを産みにくい理由 (PHP新書)』(PHP研究所)	2023.12
	論文(共著)	“What Kind of “Outlook of Life” do We Hold in 100-year-old Era: Results from Web Survey” (Wenwen Li, Junya Tsutsui, Keiko Tanaka, Journal of Applied Sociology No.66)93-106頁	2024.3
	研究発表等(単独)	「日本における少子化対策の評価とあるべき方向性：「人口減少 80万人割れの衝撃」(2)」(日本記者クラブ)	2023.4
	研究発表等(単独)	「晩婚化に伴う出会いと結婚理由の変化：回顧調査「家族に関する振り返り調査」の分析 (2)」(第96回日本社会学会)	2023.10
	研究発表等(単独)	「処置のジレンマ：因果推論における意味の問題」(第96回日本社会学会大会)	2023.10
	研究発表等(単独)	“The Declining Trend of Birth Rate and Marriage: The Case of Japan” (International Comparative Study on Giving Births and Family in the Era of Falling Fertility Rates - Japan, Taiwan, the Netherlands, Sweden, Korea)	2023.10
	研究発表等(単独)	「高齢期における孤独・孤立の実態と要因：社会学の観点から」(JST-RISTEX シチズンサポートプロジェクト×学術変革領域研究(A)「生涯学」ジョイント・シンポジウム「超高齢社会における加齢観の刷新による社会的孤立・孤独の一次予防」)	2023.12
その他(単独講演)	「継続的かつ安定したキャリアの形成に向けて」(参議院 国民生活・経済及び地方に関する調査会)	2024.2	
富永 京子	著書(分担執筆)	『コミュニティの社会学』(祐成保志・武田俊輔・渡邊隼・植田今日子・小山弘美・富永京子・藤田研二郎, 有斐閣)	2023.12
	論文(単著)	“Protest tourism as gendered experience: constraints, feelings and gender roles of female activists” (Frontiers in Sustainable Tourism 2)	2023.6
	論文(単著)	「1970-80年代の雑誌を通じた「性の解放」と「個の解放」：『ビックリハウス』における女性の身体・キャリア言説を通じて」(『社会学評論』Vol.74 No.2)	2023.10
	論文(単著)	「調査研究と協働／共同の「狭間」、活動家と研究者の「狭間」——マスメディアで発信する社会運動研究者の抱える「原罪」と「贖罪」の過程」(『文化人類学』88巻4号)	2024.3
	研究発表等(単独)	「1970-1980年代若者文化における「戦争語り」の変遷：雑誌『ビックリハウス』を事例として」(第14回戦争社会学研究会大会)	2023.4
	研究発表等(単独)	“Activist Tourism as a Process of Prefiguration Development: The Case of Tourism at the World Conferences of Women, 1975-1985” (Mobilization Conference)	2023.6
	研究発表等(単独)	“Prefiguration performed by ‘pretend’ squatting: The case of the self-build community engaged by activists” (AFPP 2023 Conference)	2023.6

富永 京子	研究発表等 (単独)	“Housing, Working, and Networking with Neighborhoods: Constructing Autonomy and Reconstructing Community by Ex-Activists Youth” (APSA ASIA Workshop)	2023. 8
仲井 邦佳	その他(単独)	「授業時間, 成績, 評価」(2023年度大学基準協会大学評価研究所大会)	2023.12
中井 美樹	著書(分担執筆)	“Exploring Heterogeneity in Happiness: Evidence from a Japanese Longitudinal Survey.” (Okada, A., Shigemasu, K., Yoshino, R., and Yokoyama S. (Eds.), Facets of Behaviormetrics, Springer) 193-217頁	2023. 8
永島 昂	著書(単著)	「第18章 戦後日本における製造技術の発展」(河村豊・小長谷大介・山崎文徳編著, 『未来を考えるための科学史・技術史入門』, 北樹出版)	2023. 5
中西 純司	著書(編者 (編著者))	『図とイラストで学ぶ 新しいスポーツマネジメント 改訂版』(中西純司・松岡宏高, 大修館書店)	2024. 3
	研究発表等 (共同)	「スポーツサービスの「価値共創」における「わざ言語」の機能的研究: テニス指導場面における豊かな「経験価値」の創造」(井口瑛心・中西純司, 日本体育・スポーツ経営学会第47回大会)	2024. 3
	研究発表等 (共同)	「総合型地域スポーツクラブの休止に至る要因分析: F 県におけるクラブ創設時のプロセスに着目して」(行實鉄平・中西純司, 日本体育・スポーツ経営学会第47回大会)	2024. 3
中西 典子	論文(共著)	「人生100年時代の健康長寿を支援するコミュニティ課題—高齢者の近隣との交流実態における都市部(京都市下京区)と農村部(京丹後市)との比較を通じて—」(富澤公子・中西典子, 『立命館産業社会論集』第59巻第1号) 181-199頁	2023. 6
	論文(単著)	「三重県中南部地域の広域連携「美村 VISON」を通じた過疎地域活性化の取り組み」(京都地方自治総合研究所『地方自治 京都フォーラム』第147号) 24-30頁	2023. 8
	論文(共著)	「都市生活の場における「語られる人生」にみるサクセスフルエイジングの要因—京都市下京区に居住する超高齢者を対象とした修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチと社会関連性指標を用いた分析—」(富澤公子・中西典子, 『立命館産業社会論集』第59巻第3号)13-32頁	2023.12
中西 仁	論文(単著)	書評「三隅貴史著『神輿と闘争の民俗学—浅草・三社祭のエスノグラフィ—』」(京都民俗学会『京都民俗』第42号)97-102頁	2023.11
	論文(単著)	「元生徒へのインタビューによる授業の振り返り—「関東大震災と阪神・淡路大震災」(2001年実践)を対象に—」(『立命館産業社会論集』第59巻第4号) 97-110頁	2024. 3
	研究発表等 (単独)	「近代京都の都市周縁と祭礼」(同志社大学人文科学研究所「近現代京都の社会と空間に関する総合的研究」)	2023. 6
	研究発表等 (単独)	「神輿興き集団の歴史民俗学研究—京都の祭礼を事例に—」(京都民俗学会第355回談話会)	2023. 9
	研究発表等 (単独)	「元生徒へのインタビューによる授業の振り返り ~ 「関東大震災と阪神・淡路大震災」(2001年実践)を対象に~」(第70回ミニネタ研)	2023.12
永野 聡	論文(単著)	「グリーンソーシャルイノベーションの人材育成プログラムに関する実証研究—淡路島を事例として—」(『地域活性研究』Vol.19)	2023.10
	研究発表等 (単独)	「抑うつ傾向のある人を対象とした滞在型ウェルネスツーリズム実証研究—三重県志摩市を対象として—」(日本建築学会大会学術講演梗概集(近畿))	2023. 9



永野 聡	研究発表等 (単独)	「シェアリングエコノミーを活用した地域活性化に関する実証的研究～福井県永平寺町を対象として～」(地域活性学会第15回研究大会)	2023. 9
永橋 爲介	論文(単著)	「G.H. ミードの理論から考察する環境的自叙伝がもたらした幼児保護者の変化」(『立命館産業社会論集』第59巻第1号)201-222頁	2023. 6
	論文(単著)	「G.H. ミードの過去論から考察する環境的自叙伝の効用の違い」(『立命館産業社会論集』第59巻第2号)21-41頁	2023. 9
	論文(単著)	「G.H. ミードの理論から考察する環境的自叙伝が想起対象とする「子どもの頃の遊び」の意義」(『立命館産業社会論集』第59巻第3号)33-54頁	2023.12
	論文(共著)	「上石津水力発電シンポジウムの報告—2つの小水力発電所を100年ぶりに蘇らせた岐阜県大垣市上石津町における取り組み—」(永橋爲介・横山悦生, 産業遺産学会『産業遺産学会ニューズレター』No.29) 1-2頁	2023.12
その他 (単独講演)	「時は今だプロジェクト」12年間の振り返りと100年目にしての再稼働の意義」(上石津水力発電シンポジウム)	2023. 9	
中村 正	論文(単著)	「臨床社会学の方法 (41)DV 防止システムの構築—地域における暴力抑止の体系化」(対人援助学会『対人援助学マガジン』Vol.14 No.1)22-31頁	2023. 6
	論文(単著)	「臨床社会学の方法 (42)「『知らないこと』はつくられている—無知の姿勢・無知の知を超える『無知学』へ」(対人援助学会『対人援助学マガジン』Vol.14 No.2)25-34頁	2023. 9
	論文(共編 著者)	「性暴力・ジェンダー暴力連続体と治療的司法」(中村正・安田裕子・藤澤陽子・宮崎浩一・山口修平・後藤弘子, 法と心理学会『法と心理』第23巻第1号)	2023.10
	論文(単著)	「臨床社会学の方法 (43)鏡の背面—他者ととおした欲望の実現—」(対人援助学会『対人援助学マガジン』Vol.14 No.3)25-35頁	2023.12
	研究発表等 (共同)	「ハイリスク・ストーカーへの法と臨床—新たな視点の展開—」(廣井亮一・城下裕二・後藤弘子・中村正・安田裕子・指宿信(オンデマンド型企画), 第61回日本犯罪心理学会大会)	2023. 9
	その他(単独)	書評 ジェンダー平等政策における男性問題の位置付けの必要性と課題 伊藤公雄ほか『男性危機?』(『図書新聞』第3585号)	2023. 4
浪田 陽子	研究発表等 (単独)	「報道に見られる教師像と公立学校教員をめぐる現状の比較分析—カナダBC州の事例から—」(カナダ教育学会第61回研究会)	2023.12
根津 朝彦	その他(単独)	「コメント 多様性の勘所と大学・ジャーナリズムの連携を見据えて」(日本新聞博物館企画展「多様性 メディアが変えたもの、メディアを変えたもの」)	2023. 4
	その他 (単独講演)	朝日新聞社記者研修で「仕事ができる尖った記者と歴史的視点—組織人になる前の初心とジャーナリズムの意義」を講演(朝日新聞東京本社)	2023. 6
	その他 (単独講演)	「日本ジャーナリスト会議(JCJ)が目指したもの—戦後ジャーナリストの職能連帯の試み」を講演(北海道大学大学院文学研究院)	2023. 7
	その他(共同)	インタビュー記事「加害、被害の溝 埋める試み期待」(『毎日新聞』2023年8月28日付メディア面「戦争報道のこれから」特集記事)	2023. 8
盧 載玉	著書(単著)	『ハングルのとびら2』(新刊)(朝日出版社)	2024. 1
	著書(共著)	『ハングルのとびら1』(改訂版)(盧載玉・梁貞模, 朝日出版社)	2024. 1
野原 博人	研究発表等 (共同)	「メタ認知的問いかけを活用した相互アセスメント」(近藤聖也・野原博人, 日本理科教育学会第73回全国大会)	2023. 9

野原 博人	研究発表等 (共同)	「適切な自己決定を促すアセスメントとフィードバック—自己調整学習によるエージェンシーの育成—」(山口義亮・野原博人, 2023年度日本理科教育学会近畿支部大会)	2023.12
	研究発表等 (共同)	「可視化」を方略とした理科授業デザイン—自己調整学習によるエージェンシーの育成—」(真田順平・野原博人, 2023年度日本理科教育学会近畿支部大会)	2023.12
	研究発表等 (共同)	「メタ可視化による心理的道具の創造と科学概念の構築に関する研究—拡張的学習による理科授業デザインに理論と実践—」(有泉翔太・野原博人, 日本理科教育学会第62回関東支部大会)	2023.12
春木 憂	著書(単著)	『子どもの論理』に培う小学校国語教育の実践研究』(風間書房)	2024. 3
	論文(単著)	「国語科「読むこと」授業にみる「子どもの論理」:小学校第2学年『ふたりはともだち』実践を通して」(国語教育思想研究会『国語教育思想研究』第32号)132-141頁	2023.12
	論文(単著)	「子どもの「創作」を支える:大切にしたいこと」(日本国語教育学会『国語教育研究』622(2月))28-31頁	2024. 2
日暮 雅夫	論文(単著)	「ハーバーマスと日本の市民社会論」(『立命館産業社会論集』第59巻第1号)71-86頁	2023. 6
日高 勝之	著書(共著)	<i>Japan's Triple Disaster: Pursuing Justice after the Great East Japan Earthquake, Tsunami, and Fukushima Nuclear Accident</i> (Routledge)	2023. 6
	論文(共著)	「復興を問い続ける～終わりなき震災報道～」(日本大学法学部新聞学研究所『ジャーナリズム&メディア』第21号)39-57頁	2023. 9
	研究発表等 (単独)	(Book Author Talk) Japanese Media and the Intelligentsia after Fukushima: Disaster Culture (Koç University's Center for Asian Studies (KUASIA) Webinar, Istanbul, Turkey)	2023. 5
	研究発表等 (共同)	“Encountering Foreign Spaces Through Media Sound, Image and Narrative” (Annual International Conference of Association for Asian Studies in Asia, the Kyungpook National University (KNU) campus, Daegu, South Korea)	2023. 6
	研究発表等 (共同)	“Japan's Triple Disaster: Pursuing Justice after the Great East Japan Earthquake, Tsunami, and Fukushima Nuclear Accident” (Book Break Workshop: Pursuing Justice after the Great East Japan Earthquake, Tsunami and Fukushima Nuclear Accident, at the International Research Institute of Disaster Science (IRIDeS) at Tohoku University, Sendai, Japan)	2024. 1
	研究発表等 (単独)	“Godzilla Plus: Nostalgia, History, and Culture in the Latest Giant from Japan” (Annual International Conference of Association for Asian Studies, Seattle, the United States (Online))	2024. 3
福岡 良明	著書(分担執筆)	『岩波講座社会学第1巻 理論・方法』(北田暁大・筒井淳也編, 岩波書店)	2023.10
	著書(分担執筆)	『現代社会を拓く教養知の探究』(教養教育研究会編, 晃洋書房)83-103頁	2024. 3
	論文(共著)	対談「三人閑談 司馬遼太郎生誕100年」(慶応義塾『三田評論』No.1276)	2023. 4
	論文(単著)	「『反日』『親日』のアンビバレンス—趙相宇『忘却された日韓関係〈併合〉と〈分断〉の記念日報道』(京都大学大学院教育学研究科メディア文化論研究室『京都メディア史年報』9号)183-190頁	2023. 4

福間 良明	論文(単著)	「作品で描こうとしたものと、作品が受け入れられた背景」(特別企画 司馬遼太郎の「これまで」と「これから」)(PHP研究所『歴史街道』2023年7月号(423))104-111頁	2023.6
	論文(単著)	「なぜ、司馬遼太郎はサラリーマンに人気だったのか? —— “歴史ブーム” と大衆教養主義」(特集:「教養」の現在地)(集英社『imidas』(webマガジン))	2023.7
	論文(単著)	書評と紹介 崎濱紗奈著『伊波普猷の政治と哲学:日琉同祖論再読』(法政大学出版局)(日本歴史学会『日本歴史』第909号)104-107頁	2024.2
	研究発表等 (単独)	「戦後日本のメディア文化と『戦争の語り』の変容」(国際シンポジウム「第72回 SGRA フォーラム / 第8回日本・中国・韓国における国史たちの対話の可能性」)	2023.8
	研究発表等 (単独)	「『明治の明るさ』と戦後後期の大衆ナショナリズム:「司馬遼太郎の時代」と「昭和の暗さ」の後景化」(国際シンポジウム「東アジアにおける文化権力の対立と拮抗:和解のための模索」)	2023.9
	研究発表等 (共同) その他	「『戦跡』の構築と『継承という断絶』」(翰林大学日本学研究所専門家招聘懇談会) 「司馬遼太郎はいかに国民作家になったのか? ~戦争の記憶・メディア・大衆教養主義~」(福間良明)(福間良明 × 酒井信 × 與那覇潤, 「司馬遼太郎はいかに国民作家になったのか —— 生誕100年で考える戦後日本の歴史観」)	2024.2 2023.8
藤嶋 陽子	論文(単著)	「ファッション・メディアとしての SNS: 買いものに組み込まれていくユーザー間の情報共有」(日本デザイン学会『デザイン学研究特集号』30巻1号)58-67頁	2023.8
	論文(共著)	「ロボットのファッション: 装う身体/装わない身体から考えるヒトとテクノロジーの関係」(藤嶋陽子・川崎和也・佐野虎太郎, 日本ロボット学会『日本ロボット学会誌ロボ學』42巻1号)14-17頁	2024.1
	論文(単著)	「ファッションとテクノロジーという問題系」(『感性工学』22巻1号)43-47頁	2024.3
	研究発表等 (単独)	「人間とテクノロジーの協働が導くファッションデザイン-ポスト人間中心主義時代におけるファッションという問題系-」(第25回日本感性工学会大会)	2023.11
	その他(共同)	「流されるままに選択していない? その選択、ダイジョウブ?」(竹田ダニエル・藤嶋陽子, 立命館大学教養教育センターみらいゼミ関連企画)	2023.6
	その他(共同)	「AlgorithmicCoutureAlliance —— デジタルとファッションをめぐる対話」(蘆田裕史・井上雅人・飯田豊・津川恵理・宇川直宏・藤嶋陽子・佐野虎太郎・川崎和也, SUPER DOMMUNE)	2024.3
	その他 (単独講演)	「デジタルプラットフォームのなかでのファッション——加速するイメージの連鎖と軽やかな消費」(オープン・ダイアログ「デジタルな私と滑らかなファッションデザイン?」, シビック・クリエイティブ・ベース東京[CCBT])	2024.3
前田 信彦	論文(単著)	「女性の職業キャリアにおける管理職経験と定年後のライフスタイル」(『立命館産業社会論集』第59巻第2号)1-19頁	2023.9
	論文(共著)	「大学生のキャリア意識に関する日中比較—「地位達成志向」と「生き方の探究志向」の分析—」(前田信彦・ZHU Lingyu, 『立命館産業社会論集』第59巻第4号)83-95頁	2024.3

前田 信彦	研究発表等 (単独)	“Contact with nature and cosmic level of gerotranscendence of elderly Japanese People” (IAGG: International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress)	2023.6
増田 幸子	研究発表等 (単独)	「トレンディドラマ再考:ジャンルとジェンダーの視点から考える」(東アジア日本研究者協議会 第7回国際学術大会)	2023.11
松岡 宏明	著書(単著)	『子供に子供の美術を』(三元社)	2023.7
	著書(監修)	『鑑賞学習ルーブリック』を活用した美術鑑賞学習指導モデル集』	2023.8
	研究発表等 (共同)	「美術鑑賞学習指導体系構築への展望」(日本美術教育学会学術研究大会岐阜大会)	2023.8
	その他 (単独講師)	「第5回研究論文・実践報告の書き方初級セミナー」(日本美術教育学会学術研究大会岐阜大会)	2023.8
その他 (単独講演)	「子供の表現・造形活動」(一般社団法人 大阪府私立幼稚園連盟 南京阪支部 研修会)	2024.1	
その他 (単独講演)	「造形教育における幼小中のつながりについて」(令和6年度兵庫県造形教育研究発表尼崎大会)	2024.2	
松島 綾	研究発表等	「メディア分析」セッション司会 (日本コミュニケーション学会第52回年次大会)	2023.6
	その他 研究活動	Global Media and China (Sage Journal) Reviewer	2023.4
松島 剛史	論文(単著)	「ラグビー史」(日本フットボール学会 『フットボールの科学』Vol.18 No.1) 9-11頁	2023
	論文(単独)	「ラグビーはいかにして世界的競技になったか?」(白水社 『ふらんす』98(9))10-15頁	2023.9
	論文(単独)	「人はなぜスポーツに魅せられるのか:人間の発達とスポーツ」(全国障害者問題研究会 『みんなのねがい』10月号)22-23頁	2023.10
松田 亮三	論文(単著)	「問われる「開業医」像:国際的動向をみつ考える」(大阪府保険医協会『大阪保険医雑誌』51(680))10-13頁	2023.4
	論文(単著)	「「コロナ後」に向けた地方公衆衛生行政の課題:地方制度との関わりで」(大月書店 『季刊自治と分権』第91号)41-51頁	2023.4
	論文(単著)	「医療の必要の不足の社会的可視化:普遍医療給付の徹底に向けて」(貧困研究会 『貧困研究』Vol.30) 5-13頁	2023.6
	論文(単著)	「人々の多様性と正面から向き合う取り組みを」(自治体問題研究所『住民と自治』724) 4頁	2023.8
	論文(単著)	「医療同等性の徹底に向けて:欧州の経験からの示唆」(日本刑法学会 『刑法雑誌』63巻1号)45-56頁	2023.11
	研究発表等 (単独)	「日本における「健康格差」対策—既存の政策パラダイムによる限定」(第64回日本社会医学学会総会)	2023.7
	研究発表等 (単独)	「医療・福祉領域における協同組合—国際的文献からみる(研究)動向—」(第7回くらしと協同 研究活動報告会(全体研究会))	2024.3
三管 利幸	研究発表等 (単独)	「伊波普猷研究の新展開:崎濱紗奈『伊波普猷の政治と哲学:日琉同祖論再読』を読む」(第48回社会思想史学会大会)	2023.10
宮尾 万理	著書(単著)	『英語学習者による指示表現の読解と産出——英・中・日本語の母語話者との比較から見える特徴——』(晃洋書房)	2024.3

村田 観弥	著書(その他)	『インクルーシブ教育ハンドブック』((監訳)倉石一郎・佐藤貴宣・渋谷亮・濱元伸彦・伊藤駿, (株)北大路書房)	2023. 8
	論文(単著)	「教育における「理解」の脱構築試論—解釈学からフロム, バルトを經由して—」(『立命館産業社会論集』第59巻第2号)43-57頁	2023. 9
	研究発表等 (単独)	「「疑似障害」と「生成変化」の批判的体験活動：差異の生成に着目した関係論的研究」(日本教育学会 第82回大会 (於：東京都立大学 法政大学・Web開催)ラウンドテーブル)	2023. 8
	その他 (単独講演)	「「特別支援教育」は「インクルーシブ教育」へ展開できるのか」(立命館学校教育研究会秋季大会2023 第4分科会)	2023.11
柳澤 伸司	論文(単著)	「「検閲」の罫と言論・思想の自由」(新聞教育研究所『新聞と教育』通号321) 5-9頁	2024. 3
柳原 恵	著書(分担執筆)	「自分を解放するための知に出合う—教養知とジェンダー」『現代社会を拓く教養知の探求』(教養教育研究会編, 晃洋書房)	2024. 3
	その他(単著)	「遊歩道 森崎和江と北上のえにし」(『岩手日報』)	2023. 5
藪 耕太郎	研究発表等 (共同)	“Performing modernities in the ring: The 1921 MMA matches between wrestling and Kōdōkan judo as mirror of contesting national bodies” (The 8th Annual Hasekura International Japanese Studies Symposium)	2024. 1
	その他	書評「劉暢著『中国武術の競技化』」(『週刊読書人』2023年8月18日号)	2023. 8
	その他	書評「木村光一著『格闘家 アントニオ猪木』」(『週刊読書人』2024年1月19日号)	2024. 1
山崎 遼	研究発表等 (単独)	「伝承バラッドから伝承者のカウンター・ナラティブへ」(日本バラッド協会第15回会合)	2024. 3
山田 宗寛	研究発表等 (共同)	「ACEを経験した子どもの理解とアドボカシー支援員との連携の課題：現場から」(石田賀奈子・小林哲生・山本剛・山田宗寛, 日本子ども虐待防止学会第29回学術集会滋賀大会)	2023.11
	その他(共同)	『令和5年度子ども・子育て支援等推進調査研究事業 社会的養護に係る統計調査の効果的な実施に関する調査研究 報告書』(政策基礎研究所)	2024. 3
吉田 誠	著書(単著)	『戦後初期日産労使関係史：生産復興路線の挫折と人身体制の転換』(ミネルヴァ書房)	2024. 3
	研究発表等 (単独)	「戦後初期における先任権移植政策の展開と労使の対応」(社会政策学会労働史部会研究会)	2024. 2
	その他 (単独講演)	「先任権と日本的雇用慣行」(如水会京都支部 ミニ講演会)	2023. 4



